

すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	東京都新宿区西新宿 7-18-5VORT ビル 1F
施設名	ルーチェ保育園西新宿

1. 活動のテーマ

<テーマ>

せかい～五感をつかって～

<テーマの設定理由>

オリンピックイヤーであることから「せかい」をテーマにかかげ、子どもたちが見て、聞いて、感じたことから色々な「せかい」に興味を広げてほしいと思いテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

- ① R6年6月～8月
「素材との出会い」
- ② R6年9月～10月
「色との出会い」
- ③ R6年11月～12月
「数量との出会い」
- ④ R7年1月～3月
「季節を感じる」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】画用紙、折り紙、クレヨン、絵の具、筆、廃材、自然物 など

【機材】顕微鏡、カメラ、プロジェクター、ビデオカメラ、ラミネーター、マグネット

【環境】・様々な素材や道具を自分で選択して使えるよう棚を整備する。また、棚は可動式にし、活動内容に応じてコーナーを作れるようにする。

・顕微鏡やプロジェクターを使って自然物や素材、事象について調べたり観察することができるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① トイレットペーパーに水とフエキのりを混ぜる。
- ② 絵の具を混ぜてアジサイの濃淡の色を作る。
- ③ 三原色で混色を作り、クリスマスツリーを作る。
- ④ 自然物（落ち葉、木の実、氷など）を顕微鏡で観察する。触れる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

① 素材との出会い

紙やプラスチック、不織布など、様々な素材に触れる中で、「硬くていたい紙」「やわらかくてふわふわ」と感触を言葉にしていた。そんな中、「トイレットペーパーは水に溶ける」という声が5歳児の子どもから上がり、実際に水で濡らしたらどうなるか実験することとなった。後日、実際にトイレットペーパーに水、フエキのりを混ぜて溶かす体験を行うと、変化した質感を「ぐちゃぐちゃ」「ねばねば」と様々なオノマトペで表現していた。ダイナミックに触れる子どもや、触れることに戸惑う子どももいたが、「気持ちわるい。でも楽しい。」と感触を楽しむ様子があった。

② 色との出会い

本物のアジサイを見ながら製作を行う。保育者が「アジサイはどんな花？」と問いかけると、「いいにおい」「小さい花が集まって大きな花になっている」「色の濃いところ、薄いところがある」「紫のところと、青のところがある」など、たくさんの気づきを言葉にしていた。アジサイの色作りでは絵の具を使って色の濃淡を表現するにはどうしたら良いかを子どもたちと考える機会を設けた。じっくりと考えているもののなかなか言葉にならない様子だったため、保育者が「薄いところは白っぽくも見えるね」と声をかけると、「白を混ぜてみる」「水を混ぜたらどうなるかな？」と4歳児の子どもから次々と意見が出始めた。その後、それぞれが絵の具や水を混ぜて調整し、アジサイの色作りを楽しんでいた。

③ 数量との出会い

色の混ぜ方で濃淡が表現できる楽しさを味わったことから、三原色の混色を体験しながらクリスマスツリーを作ることとなった。青と黄の絵の具を混ぜる量によって「色々な緑」ができることに気がつき、青が多いと「濃い」、黄が多いと「薄い」「黄緑みたい」と表現していた。後日、三原色でチーム分けをして、友だちの絵の具と色の交換をしながら混色を楽しむ機会をつくる。「もっとたくさんちょうだい」「ちょっとでいいよ」など、作りたい色のイメージを持って量の調整をする姿が見られた。

④ 季節を感じる

公園に咲いている花や落ち葉、木の実を図鑑で調べたり顕微鏡などで観察する。「線が見える」「秋はオレンジや茶色の植物が多い」など気づきを言葉にしていた。そんな中、冬のイメージは「雪」「氷」「かぜ」など子どもたちの声から、氷に触れる体験をする。氷を手を持った子どもが、「手が冷たい」「じんじんしてきた」と言うと、隣にいた子どもが「ね、じんじんするね」と表現を共有していた。また、手の上で溶ける様子を見て、「手があったかいから溶けるんだよ」と知識を言葉にしていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ① ・触ることに抵抗がある子もいるが、友だちの楽しそうな様子や、実際に触ってみる体験から、「気持ち悪い＝楽しい」という感覚になっていた。
- ② ・本物のアジサイをよく観察することで、「花の構成」を知るきっかけになり、さらに関心が深まっているようだった。
・匂いからも色をイメージしているようだった。
- ③ ・7月から行っている色の変化や混色の経験によって、もっといろいろ試してみたいという意欲に繋がっていた。
・自分だけではなく、友だちとイメージを共有し、調整しながら作る楽しさも感じ始めているように感じた。
- ④ ・手がかじかむ感覚の表現も様々で、子ども同士で言葉を真似てイメージを共有する場面もあった。体験を言葉で表現すること、友だちの言葉を真似て新たな表現方法を獲得している様子を見て、体験が語彙力につながると感じた。

